

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市黒松児童館
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団
3 指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 24,501人(前年度比 121.1%) 令和5年度 20,226人 令和4年度 17,067人
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 36,086千円(35,643千円) ・ その他市が負担した費用 0千円(0千円)
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円(0千円) ・ その他収入 0千円(0千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる	31/31
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。気づいた事や児童の様子等、付箋を活用し記録を残して職員が一貫した認識を共有して支援にあたっている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、こども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中学生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。また、地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
地域の世代交代が進み、こどもと地域との関わりを再構築することが求められている中、地域の特に関わり世代とこどもたちが交流し、新しい関係を築くことができました。 児童健全育成事業では「野菜や花で陸を豊かに！黒松SDGs」を実施しました。SDGsを自分たちのこととして捉えることが大切と考え、作物をどう育てどう使うかを考えながら取り組みました。多くの課題をクリアしてできた作物を「親子クッキング」で使用しました。調理中も会話が弾み、一緒に食することで家族同士の交流が進みました。また、感謝を伝えたいとの思いから、育てた花で花束やリースを作って家族に送り、家族の絆を実感することができました。他にもどんなSDGsがあるのか興味広がっています。 子育て家庭支援事業では夏休み中の土曜日に「くまっちー0」を実施しました。家族で参加しやすかったため、父親同士の交流が活発でした。また、小学生が参加して幼児に絵本を読んだり、保護者から抱っここの仕方を教わったりしました。小学生が命の尊さを感じ、幼児保護者からは子どもの未来の姿を想像することができたとの声が聞かれました。 地域交流推進事業では小学生の「チャレンジクラブ」を地域の交流活動に活かしました。踊りや楽器の演奏を市民センター・児童館まつりで発表し、地域の方からたくさんの応援と拍手をいただきました。ドッジボールや大縄の練習の成果を台原児童館、旭ヶ丘児童館との交流戦で発揮し、多くの保護者の声援を受け地域の一体感を感じることができました。 放課後児童健全育成事業では「保護者会＆交流会」で保護者と小学生が遊びを通して交流しました。普段遊んでいる児童館ならではの遊びを小学生が紹介し、保護者がコーナーを回って一緒に楽しみました。児童館での様子が具体的に伝わり、お互いに顔の見える関係になり、こどもが地域の中で見守られていく安心感を得ることに繋がりました。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
児童健全育成事業においては、令和6年度からSDGsの取り組みを始め、こども達の意見を取り入れて野菜や草花の栽培、虫の飼育等を行っている。「子どもクッキング」も新たに企画し、活動を通して食への関心を高め、親子クッキングは保護者同士が交流を持てる機会ともなり、参加者から好評を得た。こども達の話し合いでやりたい遊びをリストアップし、投票で1か月の遊びのテーマを決めて大会開催に繋げる「〇〇強化月間」「楽しもう！あ・そ・び」は年間通して開催している。取り組みを通して異年齢交流が図られると共に日々の遊びに展開されており、遊びの充実に繋がっている。また、小中学生に対して、それぞれに専用の児童館便りを作成し、学校を通して全児童・生徒に配布して利用促進に努めている。 子育て家庭支援事業においては、八乙女地区社協の協力を得ながら同地区を対象とした移動児童館を毎月実施して、乳幼児への多彩な遊びや保護者同士の交流が図れる場を提供し、利用者が増加している。土曜日に開催された「くまっちー0ミニ」は小学生が読み聞かせや手遊びを披露したり、0歳児と触れ合い異年齢交流が図られた。また、乳児保護者が児童館での小学生の様子を知る機会や父親同士が交流が図られる場となっており、多彩な取り組みで地域の子育て家庭を支援している。 地域交流推進事業においては、放課後子ども教室と連携した「思いつき遊ぼうIN黒松小学校」は、令和6年度は地域のサッカーチームとも連携を図り、サッカーを通して親子や地域住民同士が交流した。市民センター祭りのオープニングでチャレンジクラブのダンスを披露したり地域のお祭りで遊びのコーナーを担当する等、地域に向けた児童館事業の認知向上に努めている。 放課後児童健全育成事業においては、高学年を中心に「ハザードマップ作り」が継続的に行われている。登館ルート上の危険箇所について書き出し、実際にルートを歩いて確認したり、施設内危険箇所マップを作成して掲示する等、こども達自身が安全面について考え伝えており、安全教育と共に主体性を育む取り組みとなっている。また、令和6年度から「保護者会＆交流会」を実施した。交流会では遊びを通して触れ合いながら児童館での様子を知ったり、こどもの姿や成長を共有できる機会になっている。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課